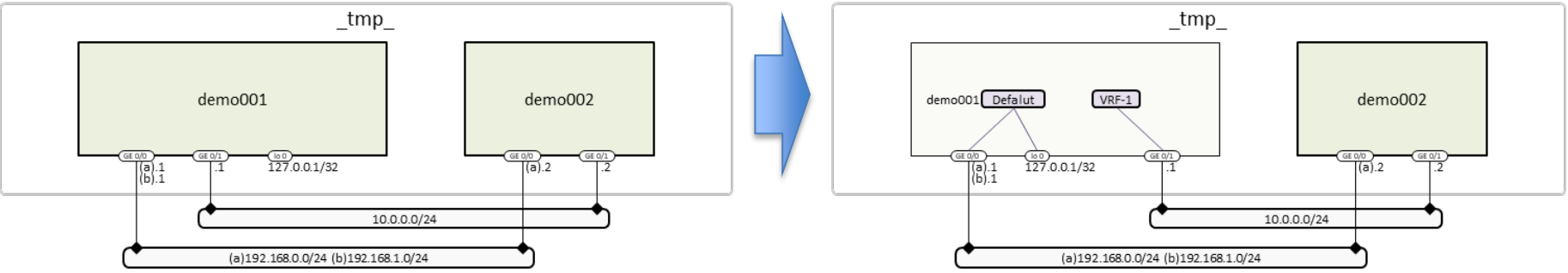


# 本手順でできること

デバイスファイルの[L3 Table]シートを更新しL3インスタンス(仮想ルータ)を設定します。

L3構成図



# ①機器ポート管理表の生成

「[2-4. デバイスファイルのエクスポート\(解説付き\)](#)」を参考にデバイスファイルのエクスポートします。

## ② [L3 Table]シートの更新 IPアドレス

デバイスファイル [L3 Table]シートにおいて、L3インスタンス(仮想ルータ)を設定したい「L3 Instance Name」列にL3インスタンス名を入力してください。

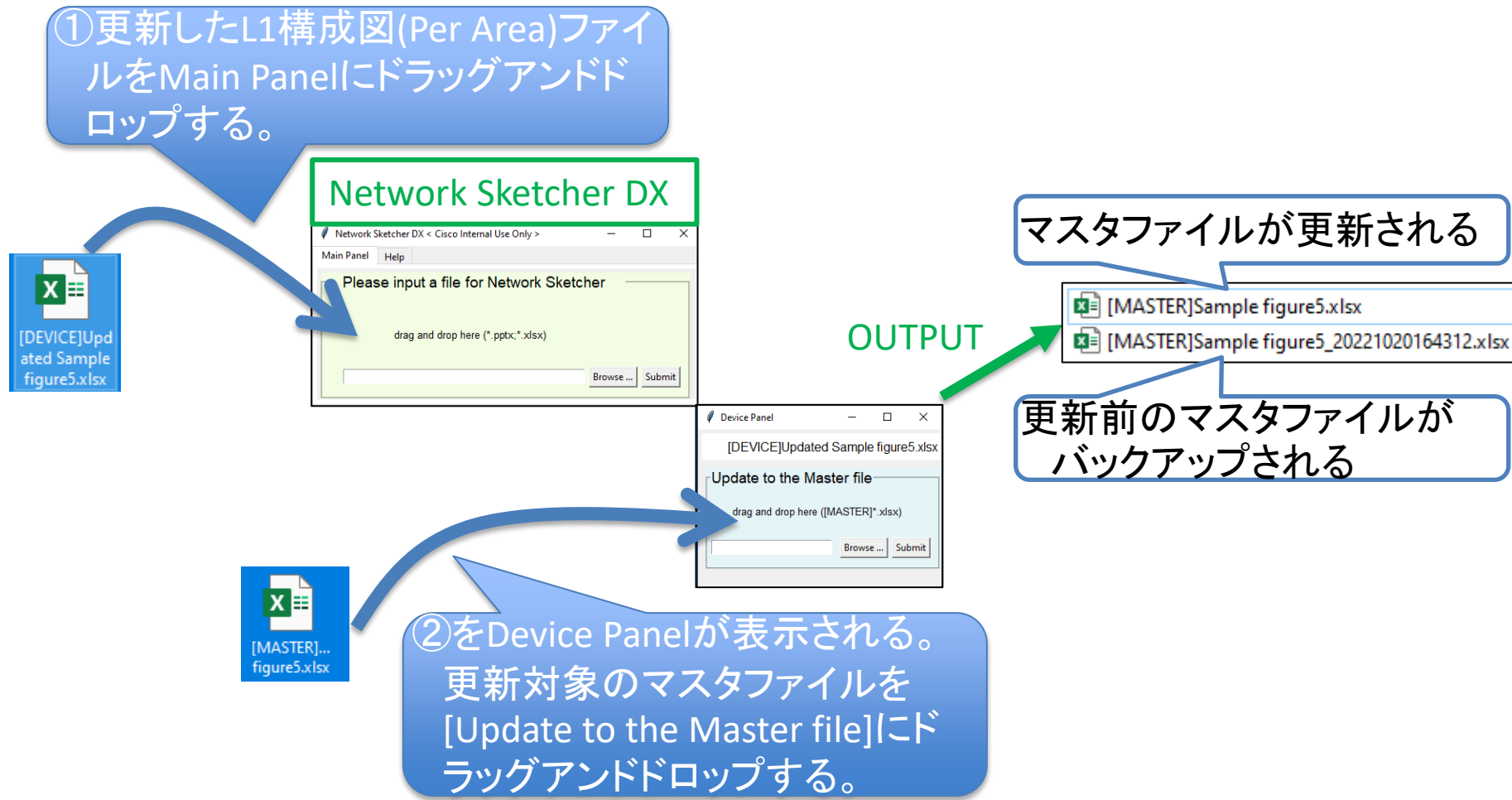
- 現在のバージョンでは、Way Point内のL3インスタンスは未実装です

Device Name	L3 Port Name	L3 Instance Name	IP Address / Subnet mask (Comma Separated)
demo001	GigabitEthernet 0/0		192.168.0.1/24
	GigabitEthernet 0/1	VRF-1	
	loopback 0		
demo002	GigabitEthernet 0/0		192.168.0.2/24
	GigabitEthernet 0/1		10.0.0.2/24

※変更箇所を赤字で記載していますが、色は関係ありません。

### ③更新情報の同期

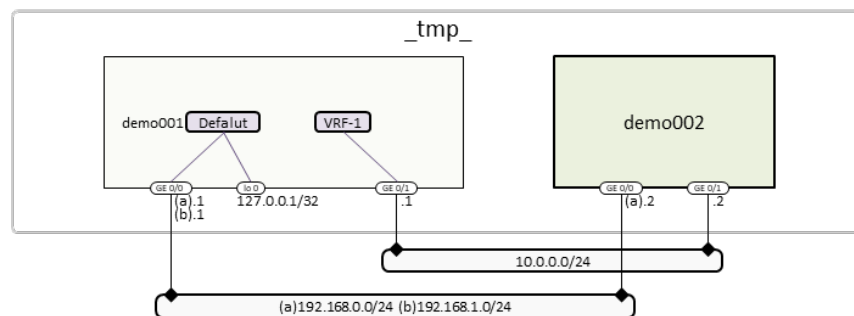
更新したデバイスファイルと、同期先のマスタデータファイルをそれぞれ選択し、同期させます。マスタデータが更新されるため、元のマスタデータはファイル名に”\_yyyymmddhhss”を付けてバックアップされます。



## ④ L3構成図の確認

「[2-3. L3構成図の生成](#)」を参考に、L3構成図を生成して変更内容が反映されていることを確認ください。

### L3構成図：生成例



- 特定のL3インタフェースにL3インスタンス名を入力した場合、L3インスタンス名の無いL3インタフェースは「Defalut」のL3インスタンス名となります。

# デバイスファイル [L3 Table]シートの解説

デバイスファイル名[DEVICE]~の[L3 Table]シートの説明。

Area(拠点)名

機器名

L3ポート名

L3インスタンス名 (VRF等)

IPアドレス

Area	Device Name	L3 Port Name	L3 Instance Name	IP Address / Subnet mask (Comma Separated)
DC-TOP1	FW-12~1~	GigabitEthernet 0/13.99		192.168.255.250/20
		Vlan 1		10.0.0.1/12
		Vlan 1300		192.168.100.101/24
		Vlan 1400		192.168.100.102/24
		Vlan 1401		192.168.100.103/24
		Vlan 1500		192.168.100.104/24
		Vlan 1501	MGMT	192.168.0.1/24,192.168.1.1/24
	SW-1B~1~	GigabitEthernet 0/15.200		192.168.100.101/24
	Sever-13~1~	GigabitEthernet 0/10.13		192.168.100.102/24
		Virtualport 77		192.168.100.103/24
	Sever-14~1~	GigabitEthernet 0/5.112		192.168.100.104/24
		GigabitEthernet 0/5.113		192.168.100.107/24

L1 Table

L2 Table

L3 Table